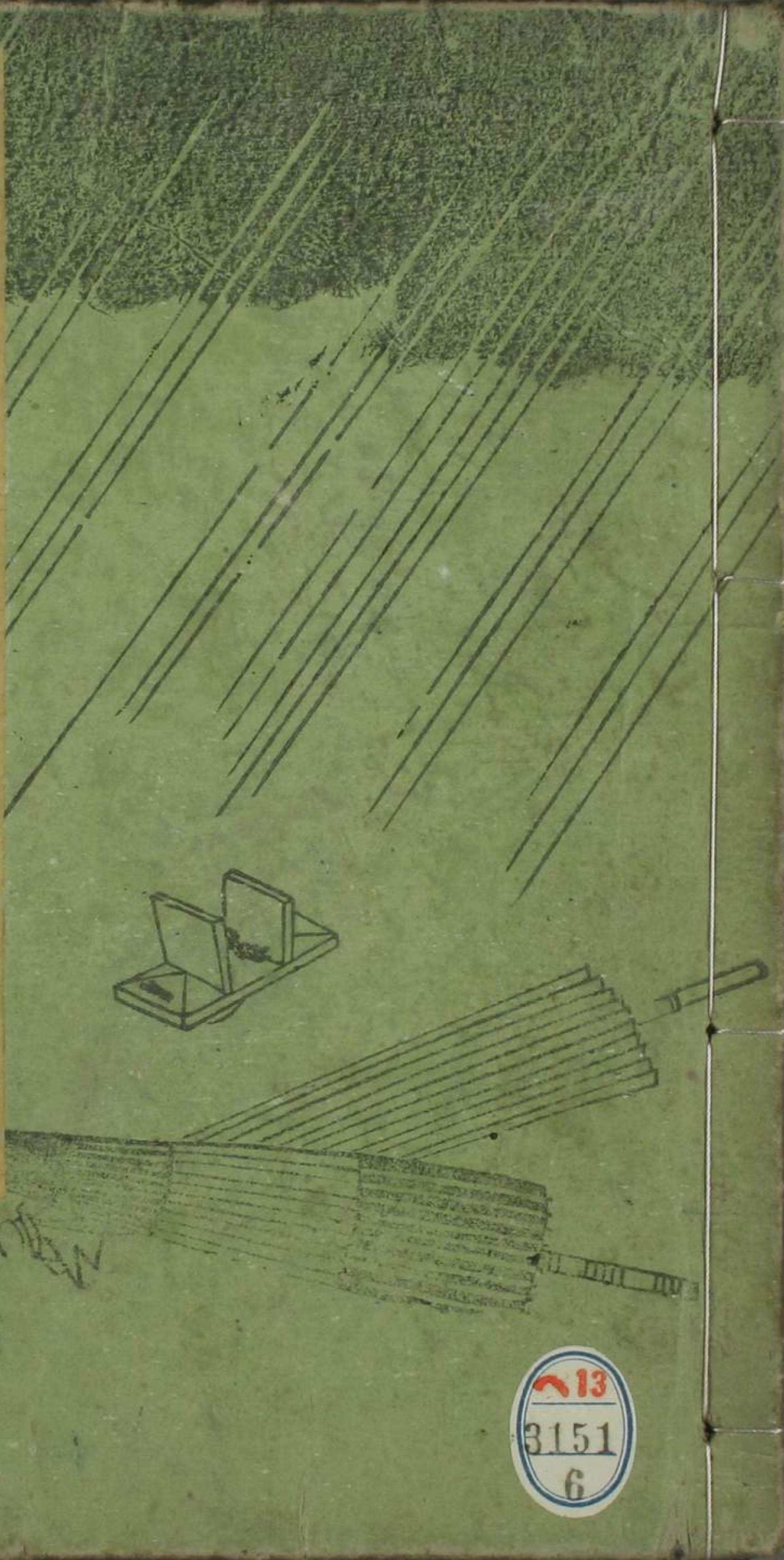


名古屋
山三郎
不破
伴左衛門

繪本稻妻表紙
六



13
3151
6



特
13
3151
6

昔話 船妻表紙卷之五上冊

江戸 山東京



⑤ 孤鴈の禍福

當時あむ右衛門又平考二月小の金の出所いふと。いぶるしむひけ依一野ふ
 一人の男汗もあそふ小息もはれあふど。飛がごとく小をせまあり。案内も
 こゝと内ふのつ。たしあふ愛あちたるがとひひつ。あつととえまはし
 あむ右衛門が手小持たる財布とるはけ。そい我失ふたる金たる
 ほうへくとどろいとひひつ。財布小手紙めらふと。あむ右衛門つらるるを
 八郎谷部雲六あふどと。いふ男仰天しむく。えは。佐々良三
 八郎あてかしら若殿柱之助もあひけは。まもく。警馬財布も
 とらて。逃いごとと。あむ右衛門猿臂と伸。えとらびほらとてひさこ

昔話船妻表紙卷之五上冊

此の時、藤の下小村、志をそひひつる。汝六年以前、今月、今
 夜百蟹の巻物と盗に去たる。おぼえぬ。我その夜若殿
 御放埒の根とたんと、藤波と殺し、そふむぬありて。一旦館と
 たまのそしつ、同夜の更にも、某もあん疑かると。汝このひ合せ
 みの巻物を盗し、うんと共、盗賊の汚名とめ、うきぬ。そのうち
 巻物と賣人といふ者ある。それとて、汚名をき、ぐをばこひ
 けんも。價百兩といふ大金にわかれ、かたがど。あるし、娘楓は、
 因て深く悲し。うきぬ、おぼえぬ。物を芝居に賣りて、百兩の金をその
 みの巻物を買ひし。諸人、小面以さし。丹波の国の蛇娘と、毒小耻
 どの、いと憂、おぼえぬ。うきぬ、おぼえぬ。汝が、あせし。業小あ、
 今、うきぬ、あせし。八天の、あせし。我宿恨を、うきぬ、おぼえぬ。時、
 ぬ、
 ぬ、

ちり、な、生皮を剥、臍子、かき、じ、も、鮑、な、り、と、の、ひ、つ、
 上小白鼻の、尖を、こ、う、つ、け、し、て、さ、の、う、き、け、し、た、
 巻物詞、只、あ、う、き、く、ち、う、ち、び、け、り、時、又、平、が、妻、小、枝、
 や、う、う、う、の、雲、六、が、顔、を、つ、け、く、と、ま、り、つ、つ、居、つ、
 羊杉坂、お、妻、が、懐、中、の、金、二十、兩、を、奪、取、逃、去、た、る、
 此者、あ、た、し、う、ふ、る、お、ぼ、え、ぬ、お、ぼ、え、ぬ、又、平、と、て、
 恩人、と、仇人、と、あ、う、も、同、月、同、日、お、ぼ、え、ぬ、出、
 あ、ふ、あ、ち、て、善、悪、つ、ひ、お、報、あ、る、と、示、し、
 よ、く、さ、け、き、て、小、枝、金、と、り、ぐ、は、の、ひ、う、け、
 郎、情、を、て、金、子、と、合、力、さ、れ、危、と、一、命、を、
 け、
 け、
 け、
 け、

腹はら不ふぎとつたて。苦くるいば息いきをつきそひひらへ。あまきろしや
 勿な体たぢや。今いまやうく天てんの賞しょう罰ばつのたぐひをきりて。積つ悪あくの報うの
 親おや面おもてふめがとまろ。こゝ瓜うり曉あけぬ某たがが懺ざん悔げ物語ものがたりと。一回ひとわりおん因いんで
 か。その某たが在京けいのうち。五ご條じょう坂さかの曲まが中ちゆうふ通とほひて過へ分の金きん銀ぎんを
 取とり。身み分ぶんたちかたれあしり。偶たふ悪あく念ねんおろして。百ひゃく蟹がの巻まき物ものと盗ぬす
 取とり。館たねを出で奔ほんして。北きた山さんをよじり杉すぎ坂さかふりてけり。折ちがしも風かぜ雨あめ
 つまりけしむ。あし木き蔭かげふ暗くら間まを待まち居ゐたふ。そわゆる婦めづ人ひと来き
 けり。むい。懐なごみ中ちゆうおのげふえけり。又また悪あく念ねんおろして。婦めづ人ひとを地ち上じやうふ
 踏ふ倒たふして。二十にじゅう兩りやうの金きんとらびひ仕し合あしと。欢よろこびて。その所ところと逃にげ去さそのち
 切きの巻まき物ものを。金きん五十ごじゅう兩りやうふ賣うけり。二ふた所ところ不ふ住じゆうふ迷まよひあり。同どう小せう切きの金きんと
 取とり。つひに尽つひし。つひに零れい々々落らくして。つひに某たがの金きんと奪うばひ

死しふい。まめんと。二に八はち郎らうの金きん銀ぎんとて。死しを救すくむひつら。今いま之の
 善ぜん悪あくのたぐひ誠まこと不ふ壤らう雪ゆき背せと。なだの所ところがごとし。豈あに賞しょう罰ばつの報うを。んや。
 初はつ某たがらう。当とう国こくふりて。草くさ津つの駅えきふ住ま家けを。め。幸さいひ石いし山さん寺じ
 の觀くわん音おん開かい帳ちやうありて。あざら。けしむ。の門かど前まへふ出で鼓つづみを。お。世よ葬さうくの
 誑うそどうなひて物ものを。え。けり。ふ前まへの日ひふ。け。幼せう年ねんの時ときワ。た。は。
 八はち重じゆう垣げんのふ妹いもうとふあひ。住ま家けふも。な。ひ。つ。て。何なにこれと。過へ去さり。り
 ぐもを。誑うそと。けり。ふ妹いもうと某たがが。浪なみ人ひとしたる。い。れ。と。ひ。けり。由よし急いそ又また悪あく念ねん
 ち。ら。う。の。つ。ひ。けり。我われ前まへの年ねん在京けいの刺さ偶ぐ五ご條じょう坂さかふ通とほひ過へ
 分の金きん銀ぎんとつ。ち。そのおひちを。は。く。の。ん。為ため。若わ殿てん。り。あ。つ。ら。なる
 絵え巻まき物ものと。贖あが入いし。けり。つ。ひ。ふ。その。あ。つ。つ。れ。て。い。ま。な。る。な。る。浪なみ
 の。身みと。り。ぬ。格かく別べつの。科かも。あ。つ。つ。れ。今いまも。切きの。巻まき物ものを。う。け。り。し

てさーちねが。飯茶の切らふ必^{ひつ}定^{じやう}ちねども。本金^{ほんぎん}小利^{せうり}金をくらへて。ぬれ
 こど百^{ひやう}兩^{りやう}をくらへての金^{かね}ちねが。わろくさうのひがく。今^{いま}先^{せん}非^ひと悔^{くわい}ると
 のどもかひわう。このひて。さう泣^{なみ}してえせけとバ妹^{いめ}それと実^{まこと}や。し
 まらば妻^{つま}が牙^{こゝろ}を賣^うて金^{かね}以^もそのへ。その巻^{まき}物^{もの}とうけり。て飯^い茶^{せん}
 を願^{ねが}ふ人^{ひと}とつあふぞ。某^{その}心^{こゝろ}小^{せう}計^{けい}なりしと攻^{こう}び。うぬくつらうと情^{なさけ}ちも。
 妹^{いめ}を当^{あた}所^{ところ}の伏^{ふし}柴^{しば}の里^{さと}ふめて。百^{ひやう}兩^{りやう}小^{せう}牙^{こゝろ}を賣^うて。今^{いま}日^{にち}もその
 牙^{こゝろ}の代^{しろ}をうけらる。天^{てん}へものおろさうし。かへる路^{みち}の傍^{かたはら}ふ。羽^うの雁^{かり}首^{くび}
 をうけて。ユ洛^{らく}居^からる。飛^とけのひわく。えあとも。技^{わざ}足^{あし}。マ拾^{ひろ}取^とて
 えゆふ。笠^{かさ}前^{まへ}の疵^{きず}繻^{ぬい}のあともなり。初^{はつ}へら。ぢふ。雁^{かり}金^{かね}の。行^い倒^{たふ}ると
 推^{おし}量^{りやう}し。何^{なに}あまれ。福^{ふく}のつら。時^{とき}晚^{たん}の寢^ね渥^{あつ}の看^{まも}とし。ひき。飢^うたる
 瘦^{やせ}腹^{はら}と肥^ふえんのものと公^{こう}のうち。小^{せう}欢^{かん}び。や榮^あ耀^{やう}心^{こゝろ}いぞ。提^たて。四^よくも

づぐ。へしと金^{かね}財^{さい}布^ふの紐^{ひも}のあふ。雁^{かり}の趣^{おもむ}ひつ。肩^{かた}の夾^{くわ}みあり。こ
 げ。懐^{ふく}手^て。て飯^い茶^{せん}し。何^{なに}とら志^しけん。かの雁^{かり}途^と中^{ちゆう}。て獲^と生^{せい}。さう。つ。な
 財^{さい}布^ふも。虚^こ空^{くう}を。存^{ぞん}して。飛^とま。け。あ。ひ。ど。翼^{つばさ}。た。れ。牙^{こゝろ}。を。悲^{かな}し。と。て。
 わ。と。ま。さ。ひ。て。は。処^{ところ}。ま。で。追^お来^きり。し。が。ユ。洛^{らく}。べ。れ。既^{すで}。も。あ。ら。ぶ。れ。み。此^{こゝ}。み。あ。ら。う。て。
 君^{きみ}と始^{はじ}め。なり。おの。く。方^{かた}。ふ。出^で。会^あい。某^{その}。が。旧^{きう}。悪^{あく}。の。あ。ら。う。へ。正^{せい}。是^じ。兄^{あに}。の。為^{ため}。ふ。
 牙^{こゝろ}。を。賣^う。り。と。の。実^{まこと}。ある。妹^{いめ}。の。牙^{こゝろ}。の。代^{しろ}。を。ひ。さ。り。し。某^{その}。が。非^ひ。道^{だう}。を。ふ。く。と。
 天^{てん}。罰^{ばつ}。を。与^{あた}。へ。ふ。疑^ぎ。なり。今^{いま}。み。の。う。ち。と。て。ア。リ。と。さ。ひ。あ。ら。う。と。て。財^{さい}。布^ふ。
 を。と。ら。う。あ。け。此^{こゝ}。百^{ひやう}。兩^{りやう}。の。金^{かね}。ハ。先^{せん}。年^{ねん}。奪^{うば}。し。二十^{にじゅう}。兩^{りやう}。小^{せう}。利^り。と。う。ら。へ。て。又^{また}。平^{へい}。こ。の。み。
 ぬ。と。の。あ。ひ。ど。合^あ。力^{りき}。う。け。し。三^{さん}。八^{はち}。郎^{らう}。ど。の。へ。は。終^{はつ}。返^{へん}。し。ま。ひ。て。清^{せい}。息^{いき}。女^{にょ}。根^{こん}。ど。
 来^き。世^{せい}。と。た。ま。を。め。る。便^{べん}。も。相^あ。ち。あ。ら。ぶ。し。の。う。れ。を。同^{どう}。内^{ない}。バ。よ。を。と。ら。う。あ。ら。ひ。

しぐ。比度石山寺の門前。諸人小入。蛇娘ハ楓どの不疑。し
 閉をけて。清兩人とのひて。掌と合。て。涙を滴のごとく。わじ
 け。又平の財布を。あむ右門。前。おれ雲六。慚邪。讖
 罪。と。実心。ひひ。つ。し。不便。も。存。ど。ね。わ。れ。が。望。の。ご。と。く
 此金。を。息女。を。あ。が。ひ。ひ。し。とい。つ。わ。か。む。右。門。頭。を。右。左。ふ。り
 う。ご。じ。の。わ。く。ハ。重。垣。と。や。ん。さ。ぶ。う。と。實。の。傍。者。を。う。れ。川。竹。の。や。が
 と。ふ。ま。ぐ。め。長。く。辛。苦。と。う。け。ま。り。ん。の。ま。の。び。め。さ。れ。り。や。う。さ。や。娘
 楓。ハ。ぶ。う。竟。悟。の。う。へ。ま。て。親。の。為。ふ。ま。ぐ。か。し。め。と。う。う。う。な。い。ん
 と。さ。り。し。比。金。を。買。し。て。ハ。重。垣。と。こ。と。り。じ。ほ。ろ。ま。さ。ん。し。とい。ひ。て。
 う。け。が。は。さ。し。バ。雲。六。苦。げ。息。を。つ。き。あ。そ。の。金。を。清。息。女。の。身。に
 わ。か。ひ。あ。ら。わ。い。つ。と。妹。が。實。公。の。か。ひ。も。あ。ら。ざ。し。珠。更。の。金

おんオの膝のあ。ろ。ろ。ふ。落。ち。る。よ。し。畢竟。天。う。う。忠。臣。孝。子。以。賞。し
 む。ひ。て。与。へ。あ。ふ。疑。や。若。海。川。も。か。ち。つ。と。わ。バ。妹。が。志。ハ。水。の。泡。と
 ち。を。吹。し。ひ。と。ふ。ん。同。さ。け。む。い。と。う。し。若。さ。も。あ。ら。ま。其。死。し。も。
 ら。ろ。ろ。眼。を。さ。ま。れ。や。ま。ま。と。と。涙。を。な。ま。し。て。わ。ひ。け。り。桂。之。助。始
 終。と。同。惡。あ。も。は。く。善。も。つ。た。彼。が。ね。ひ。未。期。の。望。や。あ。ら。ま
 と。げ。け。は。く。と。な。し。と。お。れ。あ。ふ。せ。ふ。か。む。右。門。や。う。く。ら。ね。と。う。け。は。ひ
 け。り。雲。六。い。う。と。う。げ。不。打。笑。今。ハ。此。毒。小。の。ぞ。と。る。し。死。出。の。旅。路。は
 の。ぞ。ぶ。や。相。公。の。御。前。を。け。り。と。罪。ハ。お。ん。免。し。あ。り。れ。し。と。て。腹。十。文
 字。小。さ。さ。や。ぶ。て。咽。吭。と。か。た。斬。て。う。う。が。り。伏。て。死。し。た。ら。せ。り。時。小
 あ。む。右。門。の。鳥。と。さ。ら。と。あ。け。て。の。そ。此。鳥。雁。子。似。た。ら。し。と。い。へ。ど。も
 う。く。く。え。ね。バ。漢。名。蒼。鷲。と。い。ふ。鳥。なり。と。高。飛。雁。子。似。て。蒼。鷲。白。之

目相見て孕吐て子以生といり。夏子益奇疾方不若鷓鴣の肉不
 人血を和して。瘰癧を治と所方あること。ある名医不同たる夏あり。吃寒言
 おも又驗あるまど。此小あぶらむひうけど。奇鳥成得たるも。又一奇
 事あり。そらふりちひむらぶら。又平おそ。鳥の肉を
 さらそ。火あぶり。雲六が鮮血とそ。だて食し。は不頓不咽と。かみざり。
 生と。はれたる。吃寒言。忽常の人のもの。かごとく。小枝。於。竜。等。六不思議
 与へ。か。ら。ら。と。の。ふ。さ。の。ぬ。も。い。と。あ。れ。ら。る。な。げ。小枝。於。竜。等。六不思議
 このひそ。及び。あ。ひ。ぬ。誠。不。奇。異。の。夏。なり。け。し。か。る。折。し。も。外。の方。人
 の。足。音。ひ。き。き。け。れ。ぬ。又。平。小。枝。於。竜。小。目。六。一。志。桂。之。助。と。一。間。小
 かくし。雲。六。が。屍。と。蒲。團。ふ。ら。ら。て。床。の。下。小。押。入。中。一。と。わ。ぐ。ふ。ひ。ぬ
 も。わ。く。ん。せ。物。芝。居。の。主。楓。と。伴。ひ。ら。も。く。とい。ひ。は。く。裏。小。つ。と

あむ右衛門おむひてひける。おん家今日もは宿とよき。あひり。は。ん
 僕が。え。つ。け。て。告。し。ぬ。楓。を。あ。の。せ。や。さん。た。め。旅。宿。と。た。だ。の。森。と
 い。ふ。楓。の。父。小。さ。さ。き。を。り。あ。ら。た。る。は。お。婆。母。も。も。恙。な。く。お。の。ま。さ。そ。わ。と
 へ。涙。小。詞。なり。あむ右衛門ハ折。り。死。幸。と。及び。た。が。ひ。何。ん。と。か。と。を
 あ。ひ。て。後。芝。居。主。お。む。ひ。ぬ。ぬ。あ。の。せ。や。さん。た。め。ひ。う。け。ど。金。の。ひ。は。る。光。金
 百兩と。以。て。娘。を。か。じ。た。ぬ。り。ど。ど。と。い。ふ。芝。居。主。と。ま。う。け。が。ひ
 楓。の。京。大。坂。ハ。勿。論。伊。勢。尾。張。の。あ。ら。た。ま。で。あ。て。あ。れ。せ。ぬ。の。金。と
 徳。は。死。た。ぬ。ば。即。坐。小。百。兩。渡。し。あ。の。せ。や。さん。た。め。と。は。ら。い。と。を。し
 このふあぞ。南无右衛門。ま。む。く。及び。の。金。と。ま。う。け。て。渡。し。け。れ。ば。
 芝。居。主。教。を。あ。ら。た。め。て。ま。う。け。ぬ。と。い。ふ。楓。が。仕。合。せ。し。と。
 金。の。う。け。取。い。ぬ。の。ま。う。け。と。證。文。お。あ。れ。ま。し。印。信。と。ま。う。け。て

夕へ根をけりて。又びりりてまきもべりてひと出たぬ時三井の
晩鐘はげけりて。勢田のあらし夕日のめげぞめりけり

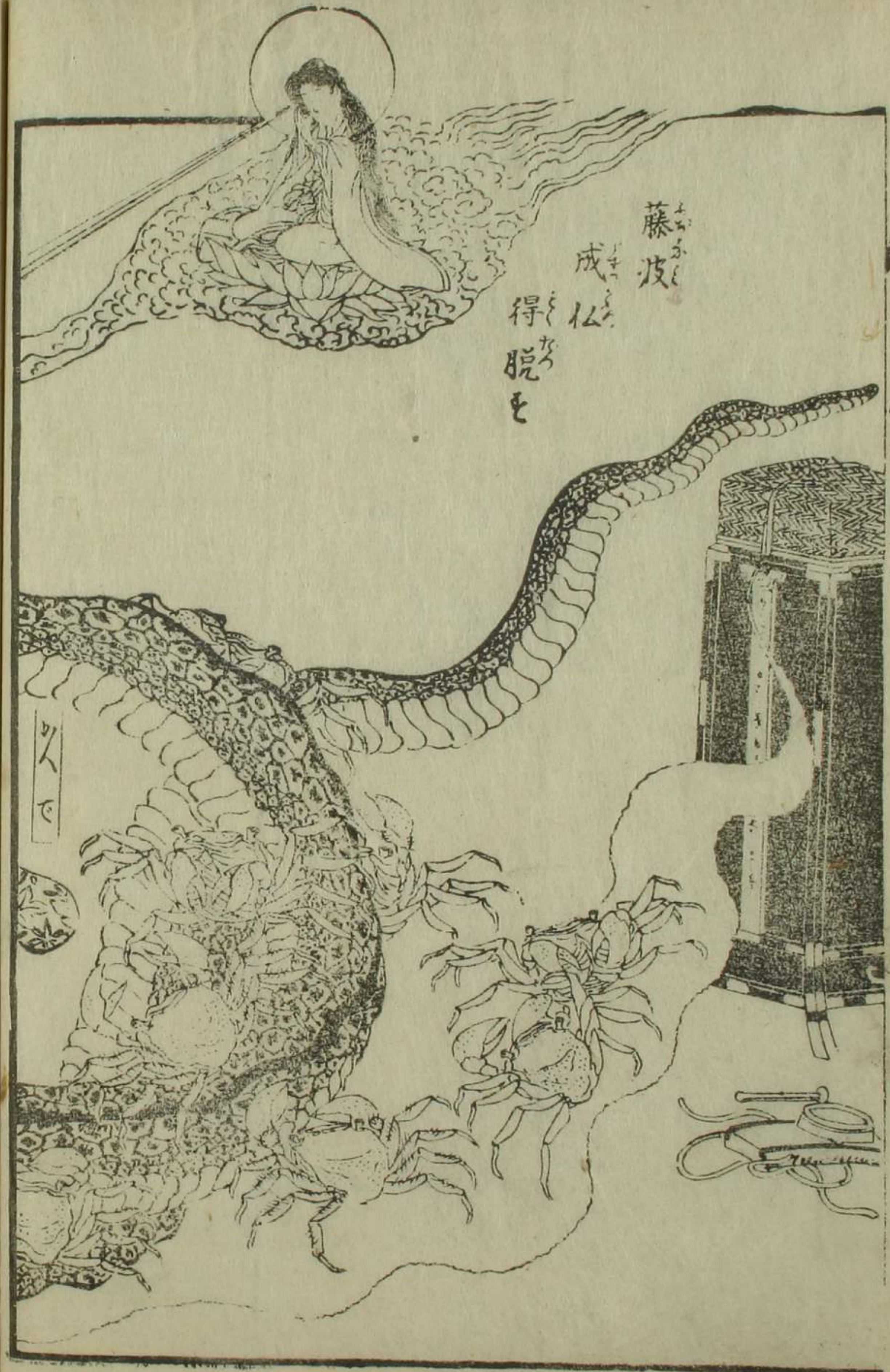
(六) 名 畫 の 奇 特

初も其時あむ右衛門主君桂之助ふれうひて娘楓みり人をさせ。又平夫
婦阿竜等も引合せ。今日のくわに物語とてさめせければ根
打因て因果輪轉の理善悪つひ報ありきを曉して嘆息しけり。
ゆて又平夫婦食事を調じてあむ右衛門父子ふあへ一間のうらふ
みちびりてやとぬせけり。あむ右衛門父子はたそひさしに出会ひぬ。
さぬの物語ふるほど時とらじ。やうく睡つさけり。やうくと楓が
声こゝろあむやくとせりけり。あむ右衛門驚れあてと醒て
又ねば。楓が腹ふ巻ほろろ小蛇懐くして飛出ると見えし。忽丈一丈

あむこの大蛇と變り。楓が身といくへもあむまきひぬ。あむのひしやまも
いふとどれたとゆりてまきとひけり。枕よふかたにうらむのうらむとあむこの
蟹とひ出て大蛇ふろとつと。蟹をみて肉をたきみ。血の泉のこく
やうれて。暫時小大蛇を殺しおんぬ。蟹はたがらふりらの蟹のうらふ
まひつると見えし。とあらち夢やうけり。あむ右衛門夢さめて。あ
うらふ汗とあらじ。楓をゆりてしけり。楓もゆりあてとあむと起
りけるあぞ。衣服とらりらげて腹をさる。うらむで片時もあむれ
ざる妖蛇。うらむゆりやん失ておとだふ。あむ右衛門さて正
夢さあむしとあらひ。蟹のうらむとあむの巻物とさめし。あむ
とあむねば。画中の蟹の蟹み尽く鮮血はれてあむけり。時己ふ
四更のころやうじ。又平も楓がめれたる声を用つけを起して来り



楓孝道
 わりきゆう 夢中
 名画乃奇特と得て
 妖蛇乃難義と
 まらう



藤波
 成仏
 得脱と

以て

あむ春房門が夢中の夏どき。灯火をゆげての巻物を熟覧し。掌を打ていひける。奇なり。妙なり。巨勢の金岡。清和陽成光孝。宇多醍醐の五朝。はへて。官大納言。曾て御府子。藏あふ金岡が画ける馬。毎夜萩の戸のやるとみ出でて。萩の花をくひし。古今著聞集。又えたる。まゝ。仁和寺の御室。み金岡が画馬あり。近田のやるとみ出でて。稲の苗をくひし。河内の国。金田村。牛頭天王の社頭。金岡が筆の絵馬。ゆけ出し。とりたぐひの説。いふ。同傳。ふろといふ。も。目前。奇特をえる。不思議。抑此百蟹の図。ハ金岡殊。み精神をこら。螃蟻の絵。み妙。得。唐代の名画。韓滉といふ者。玄宗皇帝の勅。みりて画たる。百蟹の図。み。み。ひて。か。なる。この図。はる。が。る。ハ。今。が。は。じ。め。なり。神彩。飛動。誠。み。生。る。が。如。し。奇。特。ある。

も。ふ。り。り。其。ら。と。と。と。画。道。の。奥。儀。と。ら。め。たり。と。ひ。ひ。は。り。欢。び。て。巻。物。と。か。し。ひ。と。と。再。又。い。ひ。け。る。と。ふ。は。は。り。て。る。ひ。ひ。と。る。物語。あり。昔。山。城。国。相。良。郡。久。世。郡。綺。田。村。ハ。一。個。の。美。女。あり。曾。て。仏。道。と。信。ぞ。一。時。里。人。の。多。し。の。蟹。と。捉。へ。煮。て。く。ろ。ん。と。と。の。女。是。を。る。と。あ。ひ。し。と。美。食。み。か。へ。蟹。と。尽。く。池。み。と。り。又。その。父。一。時。野。み。出。て。蛇。の。墓。と。吞。と。と。て。あ。り。れ。と。若。墓。と。ん。る。ち。や。べ。我。娘。と。汝。み。あ。と。ん。と。い。ふ。蛇。ら。ね。と。と。入。た。る。さ。ら。み。て。墓。を。吐。て。去。し。む。その。夜。衣。冠。の。若。人。来。り。て。約。の。ご。と。く。女。と。と。と。と。い。ひ。て。一。室。み。つ。と。忽。大。蛇。と。妻。と。て。女。の。身。と。ま。と。と。み。時。み。前。の。日。た。と。ナ。ら。れ。と。ら。あ。り。と。の。蟹。と。み。集。り。大。蛇。の。遍。身。と。螯。殺。し。て。女。と。と。と。と。ひ。大。蟹。ハ。去。小。蟹。虫。ハ。と。と。死。と。と。り。て。その。所。み。蟹。や。び。蛇。の。か。と。と。り。め。寺。と。建。て。

晋門山蟹満寺と号す或まゝ紙幡寺ともいふ元亨叙書巻八
 小アエたり息女の事いふ夏小似たりふふの陰徳陽報の
 理と示しるぬ名画の奇特ありて孝女とて共小是仏の意
 悲衆生濟度の方便あれ壁におしたる我拙筆の絵を又入地
 水火風の四ツの緒のなれてたれ琵琶法師も忠孝全之竹杖
 みて煩惱の犬と赤畜生道とすぬわけて天堂小生ろくかたち子
 息文弥どの姿絵とも又入りし緑青の髪とて胡粉の肌无常
 の風子塗笠も骨の残る手弱女が肩小かけ一枝の紫雲なまびく
 藤の花こと妹藤波が成仏の女なり積悪の角と折鬼はと心
 をひらびくと墨の衣小鈕ちさぬは是乃長谷部雲六が邪念と滅せ
 一奔りふどや喜怒哀楽小いりどらとてゆるくののちとて善と

やしく悪とあり正とあり邪とあり恩とあり仇とあるも三世因果の報
 こそ互の恨もつころの矢猛心とてうけて唯彼等が菩提とてひら
 小志し某にやどの夢小菟浪女とあり敵三八郎どの親子のいとも
 忠孝と感どねば今ハ恨も尽そ安養浄土小生とぬといひ
 てあり光明をえちて去とすなれば成仏得脱とてひらこ
 いふ折しも桂之助小枝於竜と共小ぬかをきぬて一同を立出
 我く三人もあらず夢をえとてこのひて一同小よりびけり時小根
 父の前小手とつと妻こと次女とつて菟浪どの文弥等の菩提と
 とひくくゆへに剃髪とて尼とほし玉のいとじといふまむ右衛門といふ
 いふ剃髪無用なり我今とて剃髪して佐渡嶋坊と名告
 我異名と汝小むづり若殿を立小出しまあせ後ハ専修の念

仙者さあつし。町の蟹満寺ちごころ破損したるはしまけべ。それと修理
 して亡人ぐの冥福の種とせよ。ちんぢ六字南无右房門といふ名と
 けけ道心せしも同然なり。汝又ちんぢり文弥が師となのちたり。
 沢角檢校ふあふひ。近ごろ丑におこるる浄瑠璃節と文子ひ因
 果の道理と唱哥ふはくそ。河原ふ於てそれとやうも。普諸人を
 勸進して我志願の助力せよといひおりの。髻昔弗とやうりて。菖浪が
 位牌ふ手向けとび。みまくるその誠心を感じけり。六字南无右房門
 といふ女太夫浄瑠璃芝居の始祖なりといひつゝ。ちんぢ八は楓が事わり
 とぞ。おむ右房門又桂之助ふむひて頭をさげ。それより河内の国ふ
 おん越ありて。若君ふ御對面あれし。奥方のおんちんぢへ。かやふま
 たらぬぬべし。いざ夜のあけぬ間ふとく。とめふせ。桂之助のそごふ

しく支度して。又平ふむひ。我時運と得て丑ふ出りな。かやふぬ
 報とせむ。そといひて。ワと告。編笠あく。あけて立出。いふ。あむ
 右房門修行者の姿。その俣ふ楓を具して相ま。又平夫婦於
 竜もとも。小恙なく。あつ。ませといひ。く門。おくり。たがひ。涙をそご
 て。別れ。一晚。ふり。由。け。ふ。昨日。や。ひ。縣。神子。野。ぶ。せ。りの。乞
 丐。ども。を。め。む。ひ。来。り。て。道。を。あ。た。た。の。ご。ろ。官。領。瀆。名。ご。の。ご。ろ
 へ。び。く。た。ら。ぬ。ぬ。あ。ふ。佐。木。桂。之。助。と。や。ん。ど。ろ。ろ。お。ち。あ。む。ぞ。ワ。れ
 昨日。又。平。が。家。ふ。せ。り。れ。家。内。の。様。子。ワ。ら。し。と。い。ひ。し。白。髪。今。爰。ふ
 ち。ん。ぢ。り。て。り。か。ふ。果。し。て。あ。や。れ。者。も。り。り。あ。ち。り。て。賞。銀。ふ
 あ。げ。め。ぞ。そ。く。手。と。つ。つ。と。そ。く。と。つ。つ。あ。む。右。房。門。追。ち。し
 て。それ。んと。錫。杖。を。と。ろ。の。べ。り。處。ふ。と。い。ひ。つ。つ。物。あ。げ。り。様。二。郎

捧とろと走り出の坂原を散ぶ追ちし。それより志賀の山越
しと見立のたゆれし人の去りて同道と見供はつらんそほひふ
四人あつぬそほひゆらぬ。そと雲六が屍ハ。又平その夜ち死山おひれ
ゆらと焔とあり。あといんどうふそつひけりそと

①七 雪溪の非熊

爰又梅津の嘉門ハ母と共お虫を避て。和州河州のまへ金剛山水越
峠の谷陰ふつせき庵をのりて。当山ハ赤草おやく。殊お金山おて
金剛砂と出と由え。それらとそりて。日の費おひんぐう薪をそと
水とくも。わけくは老母お孝行を尽し。ゆめお書籍を反しと卧竜
先生の跡を追。禅味を甘じて大幢国師の道を志す。名利お屈せぬ
志なるゆにたふそとぞえぬ。一日老母山寺おまきとそるか比しも。異冬

時節りわバ。坂路おのぞいて雪ふと出。そらく満地玉とまけけけ
ごとく。通ひりねる道とぞらも。深く雪おかるとなれば。おのづから道お
迷ひ殊更峠越の吹雪。肌おまて寒ければ。ゆめお杖とぞら。ま
一たぞと居ら折しも。獵師お追出される。穴熊お雪を踏まて
馳来り。わざと老母お飛からん。たう処お一人の若者木陰と走り
出。立ちかぐらとて熊の肩をたを一刀さうつりた。熊ハ怒て狂ひ
けらつひお足をふくわがして谷底おさし。まあるそおらゆらぬ。おの若
者ハ腰をわくそ老母おむひ。年老おおんおを雪中の歩行する
おまのびおじ。ゆめおあれぬ住家まを。負行するせん。ゆめお
老母らと。げふ。ゆめおのゆめお。今危難をまひま
ゆめお。情保と見志謝し。ゆめお詞ほそい。ゆめお詞と

けつふゆえなりし。いざしくこそ。背をかりしけて老母を買。住家の方と同
 じく走行けり。こそ嘉門ハひとり家ありて。母の飯りのかゝるを案。殊
 更俄の大雪あり。途中まどびりぬんと公。兼笠打着ていなり。と
 出母の飯路を存ていぞ。だけり。ひふの方。老母若男ふり。まあり。
 嘉門とそをいひ。けい。嘉門も。か。ち。現。連。の。か。れ。進。泰。ひ。と。云。ま。を。老。母
 若者の背よりとりたり。途中まど荒熊ふ出。会。あ。じ。く。一。命。を。失。ふ。と。さ
 を。い。え。方。の。情。あ。て。危。急。を。ま。ぬ。め。は。さ。る。と。い。ふ。と。これ。身。で。買。あ。り。し
 と。か。れ。ば。嘉門。若者。ふ。ひ。ひ。母。を。い。ら。り。あ。り。る。芳。志。謝。一。終。じ。と
 相の。あ。時。若者。雪。中。ふ。お。と。伏。て。礼。を。お。こ。さ。す。ひ。卒。示。や。が。り。ん。が。を。
 梅津の嘉門。どの。あ。い。ぶ。と。い。ふ。嘉門。答。て。某。の。り。深。山。に。住。麻。様
 と。野。戸。を。共。ふ。ら。る。あ。る。あ。ら。名。を。知。る。人。も。あ。ら。ぬ。と。い。ふ。は。そ。我。姓。名。を

ま。い。あ。り。や。ぶ。う。し。さ。う。と。い。ひ。け。れ。ば。若者。益。の。一。ら。を。さ。げ。な。う。泥。中。に
 尾。を。曳。あ。す。も。先生。の。雷。名。と。誰。う。ま。ら。る。者。あ。ら。ん。ま。が。い。の。山。寺
 あ。そ。これ。や。ら。老。母。ハ。先生。の。母。人。なる。は。と。う。け。わ。り。ま。ひ。て。う。ね。を
 送り。来。し。も。先生。ふ。ま。う。へ。ん。ま。を。い。ひ。ぬ。が。か。ゆ。え。なり。某。ハ。武士。の
 浪。人。や。ら。何。と。と。軍。畧。智。謀。の。人。傑。ふ。ま。ら。び。兵。卒。の。餘。緒。を。り
 とも。う。い。ひ。知り。再。家。と。い。ふ。ん。の。こ。ろ。ひ。立。師。と。た。の。む。ゆ。人。品。と
 同。じ。く。う。あ。い。山。の。谷。陰。に。世。を。避。て。住。梅。津。の。嘉門。とい。ふ。人。生。得。頓
 智。聰。明。ふ。と。軍。卒。子。眼。を。さ。じ。石。黄。孫。吳。が。奥。儀。と。い。ふ。め。武。畧
 衆。ふ。秀。あ。ら。し。その。才。名。か。く。と。わ。り。曾。て。兼。好。法。師。の。草。紙。ふ。わ。り
 び。武。道。徒。然。草。とい。ふ。兵法。の。奥。儀。を。記。せ。一。昏。を。編。あ。り。し
 う。け。た。多。う。して。ワ。ダ。く。当。国。ふ。ら。ほ。り。住。い。ゆ。あ。し。を。相。ま。う。兵。卒。の

梅津嘉門
河内國金剛
山小世と避て
清負と
生涯ろ
かみ



梅津嘉門

御指南おあがり。かの奥儀の昏をも拜見し度ろひい。容易お人子
あしきを多しあひがるは。門路もあつとろひひ子。今日もろひひ子
相まゝし誠是師とたのびに時節到来。天のみらびにあふ処に
向後おん家の奴僕もあつとて。薪水の業を命ぜられ兵術の進退
軍伍の勝敗御指南たのびるなりと。低頭謙讓しそひ入たるけさ
あどろくぬ嘉門感歎しそいそ。いそ若輩の才をみて武道の
心かけ深き殊勝さよ。いそ疎意お存に何おもあは且某が
宅おん越あれ人のいひるをそえさされども某が得たる
業ハ林おそ薪をそと谷おそりて水とくひの。他の更へさお
まど殊更武道つれぐ草とちん昏と編たるおと。あともる
虚言やと。軍師おと。いおがけはマといひて笑つ。三人お連て

谷おけのいりもおつりぬ。け嘉門家お飯り老母お衣服ををせえ
濡衣をあぶさかハ。老お柴たれそあてらば。いそいそとつる体と。つ
若者おそそ平日の孝行とろひやりぬ嘉門茶と奠て若者おとら
四方山のりのりらして。まどく時たう也けらお折も外のうそあつら
の声あけぬ人跡たえ。此おと家お何者の来つるマといづらうらふ
案内とらら。いひひる。これ一人の武士なり。蓑笠
打着て笠の下お覆面したまは。面いさうやれぬども。遠国の旅人
おし打扮なり。雪深くうらうらう。茶の戸を。わくとおちたれ。
誰そたのびし。そあけてあつと。い声聞て老母立出。何人ぞと
ろひい。おんおの頃日兩度おをまら。侍より。今日も嘉門家お
を。御用の間いあひやと。い。たえおたの。い。と。嘉門お

かしらうせたりとも。は方おりの小目もゆを。とともうけうひやうと返
 のぐらふ足をつの甲。あふま。とくくおん飯りゆじ。おれそおん出死蓋之
 とのひまて戸と撲地た多。裏小入る。嘉門。と何者。何れ
 が少くゆけなく。母人のゆらひあふま。とゆら。再又窓のひま。りの窓
 えふかの武士雪中。お坐。と情。やれど。老母。嘉門。どの家。おあさ
 ぶら。は。処。お。飯。宅。と。待。やん。と。ま。く。そ。り。ほ。た。の。と。ん。と。ひ。て。飯。け。ひ
 へええ。さ。り。け。折。も。雪。は。は。く。り。紛。揚。と。て。恰。も。柳。如。糸。の。舞。か
 ごとく。鶴。毛。の。飛。小。似。り。さ。ら。ぬ。だ。小。寒。と。氣。と。び。と。谷。三。陰。打。る。小。朔。風
 ん。げ。く。吹。お。ろ。せ。ば。さ。く。あ。侍。の。蓑。の。毛。小。垂。氷。さ。り。と。鈴。の。や。う。お。り。く
 ころり。お。は。え。ろ。ば。雪。中。お。ん。ぐ。り。て。吹。雪。の。面。お。は。と。お。が。ご。と。く。け。り。た。い。
 笠。お。ふ。せ。に。真。袖。お。ん。ぐ。り。歯。と。ら。ひ。ま。ら。と。寒。と。た。へ。ま。の。ぶ。為。休。誠

